

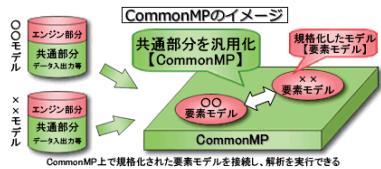
CommonMPを活用した排水機場GISモデル

流域にある排水機場の維持管理計画を策定するための各機場の社会的影響度を評価する水文・水理プログラム

(国研)土木研究所
先端技術チーム

国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

CommonMPとは



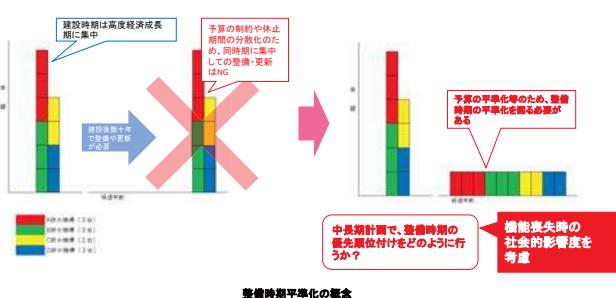
- 水理・水文・生態などの複合現象を解析するために、異なる機能を持つ要素モデルが一体的に協調・稼働させるためのプラットフォーム。
- 解析モデルそのものではなく、**解析モデルを構築するためのシステム(仕組み)**のこと。共通プラットフォームの使用に基づいて、種々の要素モデルを構築
- それぞれの要素モデルを自由自在に相互接続し、複合的な物理現象をシミュレートする全体系モデルを構築**することができる

(出典:国土交通省国土技術政策総合研究所)

国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

維持管理計画の策定と整備時期の平準化

装置・機器の整備・更新等は、中長期で計画的に実施すべきものであることから、まずは**実績に基づく時間計画保全の考え方**で維持管理計画を立案し、実施の決定は前述のとおり健全度評価によって精査するものとする。



CommonMPを活用した排水機場GISモデル とは

限られた維持管理予算で老朽化が進行する排水機場の効率的・効果的な維持管理を行うためには、管理する各排水機場の整備時期の優先付けが重要となります。

その優先付けに当たっては、各排水機場が担う社会的影響(=万一の排水機能喪失時の損害額)の比較も重要な要素であり、そのためには定量的評価を行う必要があります

そこで、国土技術政策総合研究所で開発した水理水門シミュレーションプログラム「CommonMP」上で動作する、排水機場の社会的影響度を定量的に算出するGISモデルを作成しました。

国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

開発の背景

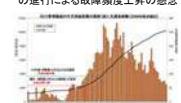
土木機械設備は、きわめて重要な社会基盤施設



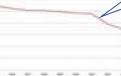
特に排水ポンプ設備は、平時は停止しているが、豪雨や異常出水の際には確実な稼働が要求される

設備の老朽化

今後10年で約40%が放置後50年超となり、老朽化の進行による故障頻度上昇の懸念



公共交通事業予算の減少



年々減少

この相反する状況下でいかに効率的で的確な設備維持管理を行なうかが課題

ライフサイクルコストを抑制し、整備・更新の費用を要する時期の集中を緩和するためのストックマネジメントの導入が必要

維持管理計画策定において勘案する要素と研究項目

勘案要素

設備の故障しやすさ: 故障率(信頼性)

データベースによる故障情報の蓄積
FTA,FMEAによる、致命的機器の抽出、部品寿命(交換時期)の算定

設備が故障した場合の影響:

社会的影響度

河川GISモデルによる排水機場機能停止時のはん蒸シミュレーションの実施

機能を補完可能な設備の有無:補完性

設備機能を維持するための費用:維持修繕費

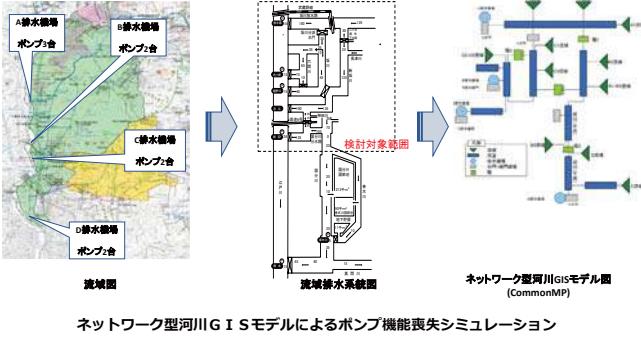
・維持管理費の推移を評価
・コスト縮減、予算根拠の明確化・平滑化

設備の状態:点検結果に基づく健全度評価

振動解析等による設備診断

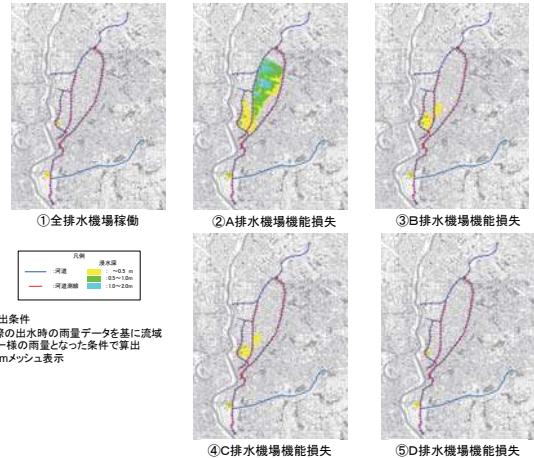
国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

河川管理用機械設備の社会影響度と補完性の評価



- 4台所の各排水機場のポンプのうち、1台～全台が機能喪失すると仮定してシミュレート。
(ただし、2箇所以上の排水機場は同時に機能喪失しない)
- この例では、平成16年10月の大雨時のデータを元にシミュレートした事例を紹介

ポンプ機能停止時のはん濫シミュレーション結果



ポンプ機能停止時のはん濫シミュレーション結果

浸水面積比較

検討ケース	浸水面積(m2)				①との比較	
	床下浸水 45cm以下	床面上浸水 50cm以下	50~100cm	100cm以上		
①全排水機場稼働	85,000	5,000	15,000	0	105,000	1.0
②A排水機場運転停止	1,290,000	160,000	1,600,000	697,500	3,147,500	35.7
③B排水機場運転停止	575,000	5,000	52,500	2,500	635,000	6.0
④C排水機場運転停止	492,500	2,500	50,000	2,500	547,500	5.2
⑤D排水機場運転停止	87,500	5,000	17,500	0	110,000	1.0

相互補完性

排水機場名	相互補完性
A排水機場	・機能停止した場合、他の排水機場での補完は十分受けられない ・他の排水機場への補完性はそれほど高くない
B排水機場	・機能停止した場合、主にC排水機場により補完される ・他の排水機場への補完性は高い
C排水機場	・機能停止した場合、主にB排水機場により補完される （約70%の排水運動） ・他の排水機場への補完性は高い
D排水機場	・機能停止した場合、他の排水機場によりほぼ補完される ・他の排水機場への補完性は低い

社会影響度の比較

被害算定結果(参考)

項目	被害総額(百万円)				
	①CaseO	②	③Case1	④	⑤
算出条件:運転停止機場なし(全台運転)	61	51,628	1,929	1,588	64
直接被害	一般被害額	2	3	3	2
	農作物被害額(水稻)	0	9	1	0
	農作物被害額(柞作)	103	87,458	3,267	2,691
	公共土木被害額	3	2,097	113	97
	緊急停止損失額	2	1,885	86	71
間接被害	清掃労働対価	4	3,155	164	136
	代替活動等の出費	2	1,224	66	55
	事業者代替活動	合計	177	147,460	5,626
	①との比	1	833	32	26

※1:治水経済調査マニュアル(案)(2005)に準じ試算
※2:調査対象試算を50mで整理

以上のことから、「A排水機場を最優先に整備を行うよう維持管理計画を立案する」ことが効率的、効果的であることを定量的に評価できる。

河川GISモデル 簡易モデル

- ある河川流域の一部の河道および排水機場を事例としたサンプルプロジェクトを用意
- サンプルプロジェクトで設定された流域、河道、排水機場などのパラメータ、条件を変更することで、対象としたい流域のモデルを作成することが可能



国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

導入に当たって(入手方法)

CommonMP本体



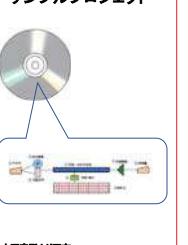
「CommonMP」サイトの「プラットフォーム」からダウンロード
<http://framework.nrlm.go.jp/plt-mod/rnmp.html>

要素モデル



「CommonMP」サイトの「要素モデル」からダウンロード
<http://framework.nrlm.go.jp/ib-mod/rnmp.html>

サンプルプロジェクト



土木研究所より配布
(問い合わせ先:先端技術チーム 029-879-6757)



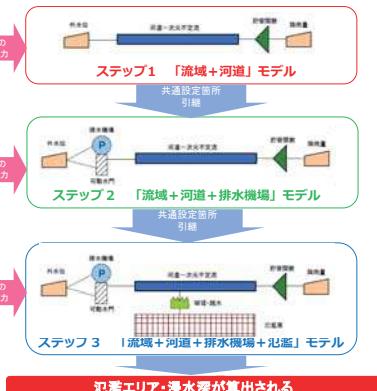
国立研究開発法人土木研究所 先端技術チーム

河川GISモデル 実施手順

データ準備

項目	説明	入力方法
流域	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
流域変数	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
雨量	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
河川断面	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
河川網	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
小水系	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
河川構造物	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
河川構造物	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
河川構造物	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄
ダム	河川の流域情報を記入。高水位 CommonMP上で 計算用データ	入力欄

CommonMPでの作業



河川GISモデル 実施手順

実施手順

被害額算定期

年	月	日	被害額(千円)	割合(%)	累積被害額(千円)	累積割合(%)
2010	6	10	1,230	1.2	1,230	1.2
2010	6	11	2,460	2.4	3,690	3.7
2010	6	12	3,790	3.8	7,480	7.5
2010	6	13	5,120	5.1	12,600	12.6
2010	6	14	6,450	6.5	19,050	19.1
2010	6	15	7,780	7.8	26,830	26.8
2010	6	16	9,110	9.1	35,940	35.9
2010	6	17	10,440	10.4	46,380	46.4
2010	6	18	11,770	11.8	58,150	58.2
2010	6	19	13,100	13.1	71,250	71.3
2010	6	20	14,430	14.4	85,680	85.7
2010	6	21	15,760	15.8	101,440	101.4
2010	6	22	17,090	17.1	118,530	118.5
2010	6	23	18,420	18.4	136,950	136.9
2010	6	24	19,750	19.8	156,700	156.7
2010	6	25	21,080	21.1	177,780	177.8
2010	6	26	22,410	22.4	200,190	200.2
2010	6	27	23,740	23.7	223,930	223.9
2010	6	28	25,070	25.1	249,000	249.0
2010	6	29	26,400	26.4	275,400	275.4
2010	6	30	27,730	27.7	303,130	303.1
2010	6	31	29,060	29.1	332,190	332.2



氾濫計算結果(イメージ)

使用する震度データ

震度	震度データ	データ種別	年
4	4	H	4
5	5	4	5
6	6	4	6
7	7	4	7
8	8	4	8
9	9	4	9
10	10	4	10
11	11	4	11
12	12	4	12
13	13	4	13
14	14	4	14
15	15	4	15
16	16	4	16
17	17	4	17
18	18	4	18
19	19	4	19
20	20	4	20
21	21	4	21
22	22	4	22
23	23	4	23
24	24	4	24
25	25	4	25
26	26	4	26
27	27	4	27
28	28	4	28
29	29	4	29
30	30	4	30
31	31	4	31

震度	震度データ	データ種別	年
4	4	H	4
5	5	4	5
6	6	4	6
7	7	4	7
8	8	4	8
9	9	4	9
10	10	4	10
11	11	4	11
12	12	4	12
13	13	4	13
14	14	4	14
15	15	4	15
16	16	4	16
17	17	4	17
18	18	4	18
19	19	4	19
20	20	4	20
21	21	4	21
22	22	4	22
23	23	4	23
24	24	4	24
25	25	4	25
26	26	4	26
27	27	4	27
28	28	4	28
29	29	4	29
30	30	4	30
31	31	4	31

以上、「CommonMPを活用した排水機場GISモデル」の紹介でした。

ご静聴
ありがとうございました。